

令和 6 年 5 月 24 日

第 2 回経営審議会施設見学会資料

— 目次 —

- 1 … 経営審議会施設見学会スケジュール表
- 2 … 姿見山ポンプ室
- 3 … 橋立浄水場
- 10 … 別所取水場・浄水場
- 17 … 新秩父ミュージアムパーク送水第二ポンプ室・配水池
- 20 … 吉田地区
- 38 … 小鹿野地区
- 45 … 皆野地区

秩父広域市町村圏組合水道局

経営審議会施設見学会スケジュール表

日 時： 令和6年5月24日（金）午前9時30分集合・出発

集合場所： 秩父消防本部駐車場

- 9：30 秩父消防本部（集合・出発）
↳ （移動15分）
- 9：45 姿見山ポンプ室 9:45～10:00（15分間）（工務課案内・説明）
↳ （移動15分）
- 10：15 橋立浄水場 10：15～10：45（30分間）（大滝・荒川事務所案内・説明）
↳ （移動10分）
- 10：55 別所取水場 10:55～11:10（15分間）（浄水課案内・説明）
↳ （移動5分）
- 11：15 別所浄水場（説明前にトイレ休憩） 11:15～11:55（40分間）
（浄水課職員案内・説明）
- （午前中のみ参加の方は、別所浄水場見学終了後、消防本部駐車場へお送りします。）
↳ （移動15分）
- 12：10 久那：弁天茶屋にて昼食 12:10～12:55（45分間）
↳ （移動10分）
- 13：05 新秩父ミュージアムパーク送水第二ポンプ室
13:05～13:20（15分間）（工務課案内・説明）
↳ （移動5分）
- 13：25 新秩父ミュージアムパーク配水池 13:25～13:40（15分間）（工務課案内・説明）
↳ （移動5分）
- 13：45 新秩父ミュージアムパーク減圧槽 13:45～13:55（10分間）（西秩父事務所案内・説明）
↳ （移動15分）
- 14：10 小鹿野役場駐車場（トイレ休憩） 14:10～14:20（10分間）
↳ （移動15分）
- 14：35 石間浄水場 14:35～14:50（15分間）（西秩父事務所案内・説明）
↳ （移動10分）
- 15：00 道の駅龍勢会館（トイレ休憩） 15:00～15:10（10分間）
↳ （移動15分）
- 15：25 皆野第一配水池 15:25～15:40（15分間）（皆野・長瀬事務所案内・説明）
↳ （移動15分）
- 15：55 秩父消防本部到着（解散）

姿見山ポンプ室



完成予定日 令和6年6月30日

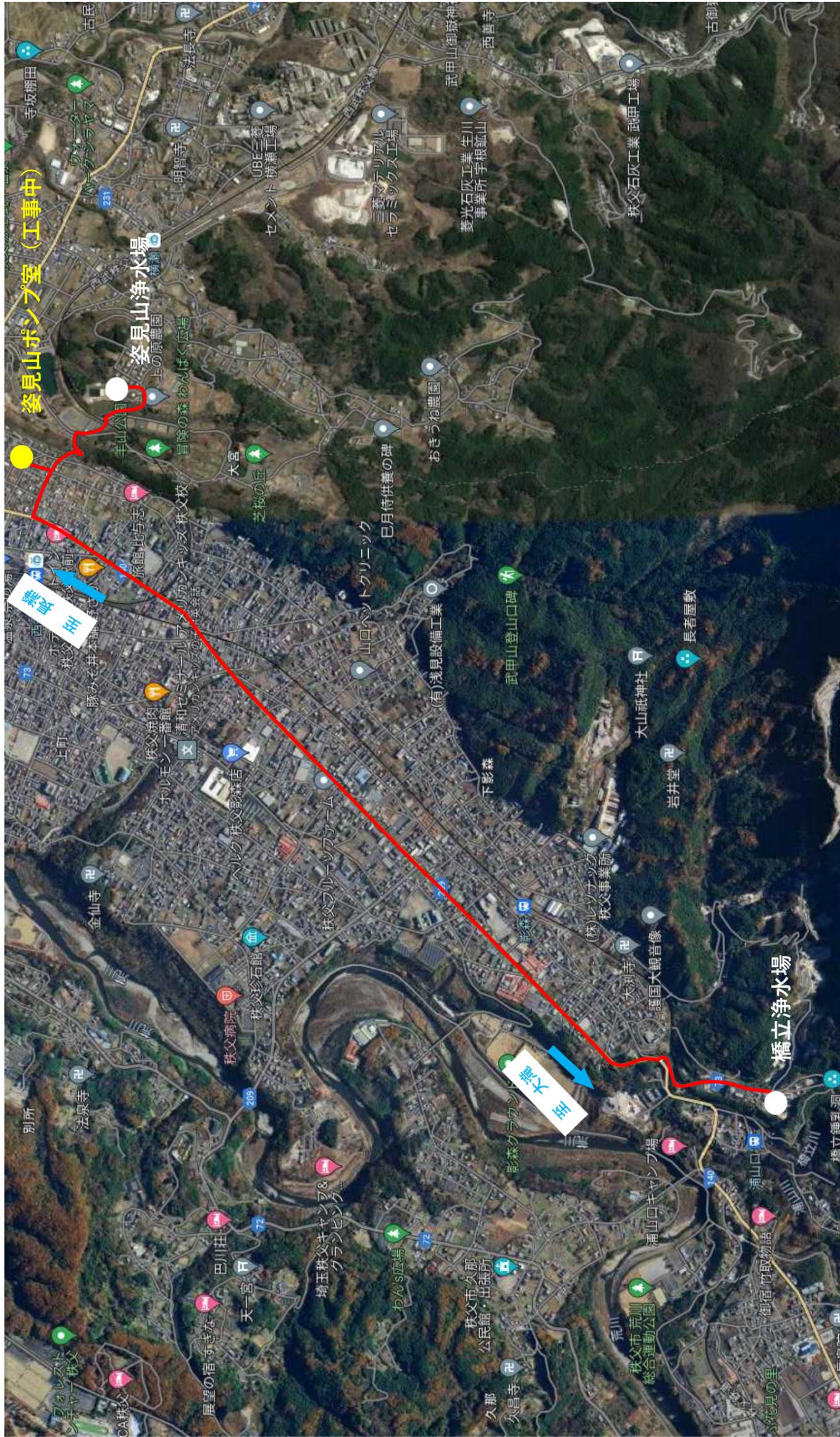
【ポンプ室】

構造	コンクリート構造物	10m×6m×5m
容量	168m ³ (84m ³ ×2槽)	
ポンプ台数	2台 ※交互運転	
ポンプ能力	1台あたり 2.78m ³ /min	
自家発電設備	一式 停電時に自動運転	
電機室	一式 受電盤・テレメータ他	
流量計	配水流量計	
水位計	一式 (電極によって水位を検出し、水位調整)	

橋立浄水場の水を姿見山浄水場(姿見山配水池)へ送る予定。

姿見山浄水場の浄水機能を廃止することができます。

また、そこから寺坂浄水場、山口浄水場の配水区域に水を送ることができるのでその2つの浄水場を廃止する予定です。



橋立浄水場の概要

秩父地域の水道事業は大正13年11月に埼玉県内で最初の近代水道として、橋立浄水場から歴史的な給水を開始して以来、100年を迎える施設です。

秩父広域市町村圏組合水道事業の中で、別所浄水場に次ぐ浄水能力を有する基幹浄水場として、今後、横瀬町や皆野町方面へ給水区域を広げる計画となっています。

現在、国の交付金を活用して、老朽化した施設から耐震化された強靱な浄水場へと更新し、安心・安全で安定供給の可能な施設にするために、事業を進めています。

1. 沿革

名称	許可年度	計 画		
		給水人口	1人1日最大給水量	1日最大給水量
創設(旧秩父市)	大正11年	15,000 人	110 ℓ/人・日	1,650 m ³ /日
第1次拡張(旧秩父市)	昭和33年	40,000 人	250 ℓ/人・日	10,000 m ³ /日
第2次拡張(旧秩父市)	昭和39年	50,000 人	360 ℓ/人・日	18,000 m ³ /日
第5次拡張(旧秩父市)	平成17年	67,470 人	627 ℓ/人・日	39,000 m ³ /日
	平成20年	67,470 人	620 ℓ/人・日	41,800 m ³ /日
創設認可(秩父広域)	平成28年	100,230 人	545.4 ℓ/人・日	54,670 m ³ /日

2. 水源

橋立浄水場は3か所の取水口より河川水を取り入れ、浄水を給水していますが、3か所からの総取水量は18,000 m³/日までと制限があります。

取水施設	取水河川	取水許可量 (m ³ /日)	取水方法
橋立取水場	橋立川	14,680	自然流下
浦山第1取水場	浦山川	4,320	ポンプアップ取水
浦山第2取水場	浦山川	8,640	ポンプアップ取水

3. 概要

所在地 秩父市荒川久那 3822 番地

創設工事竣工 大正13年10月28日

水源 表流水

1日最大取水量 18,000 m³/日

1日最大給水量 18,000 m³/日

配水方法	自然流下
浄水方法	緩速ろ過方式＋急速ろ過方式
	緩速ろ過 5, 000 m ³ /日可能
	急速ろ過 16, 000 m ³ /日可能

○事業経過

建設から100年が経過し、施設や電気機械設備など老朽化が著しいことから、秩父市の時に更新計画を策定し順次整備を進めており、平成28年4月に秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野長瀬上下水道組合の4事業体が統合され、一部事務組合の事務となり、水道局が発足しました。

統合にあたり、秩父地域全体の基本構想・基本計画を新たに策定し、国の交付金を活用し、更新工事を進めております。

統合後、管理棟の更新に着手しました。管理棟は、昭和36年に建設されており、建物、電気、機械設備の老朽化が著しく、早急に更新する必要性がありました。平成28年度から「橋立浄水場機械・電気計装施設等更新工事」として3か年の継続事業で建設を行い、平成31年に竣工しました。

管理棟と同じく昭和36年に建設された着水井につきましても、老朽化によるひび割れから漏水が発生しており、早急な更新が必要でした。平成29年度に「橋立浄水場着水井等更新工事」として、2か年の継続事業で建設し、令和元年に竣工しています。

昨今のゲリラ豪雨や異常気象により、浄水場で使用する河川の水が濁る頻度も増えています。橋立浄水場は3. 概要にあるように緩速ろ過と急速ろ過を併用している施設です。緩速ろ過は濁りがひどくなった場合、ろ過処理ができなくなることがあります。それに対し急速ろ過は薬品で汚れを除去するため、濁った水でも問題がありません。

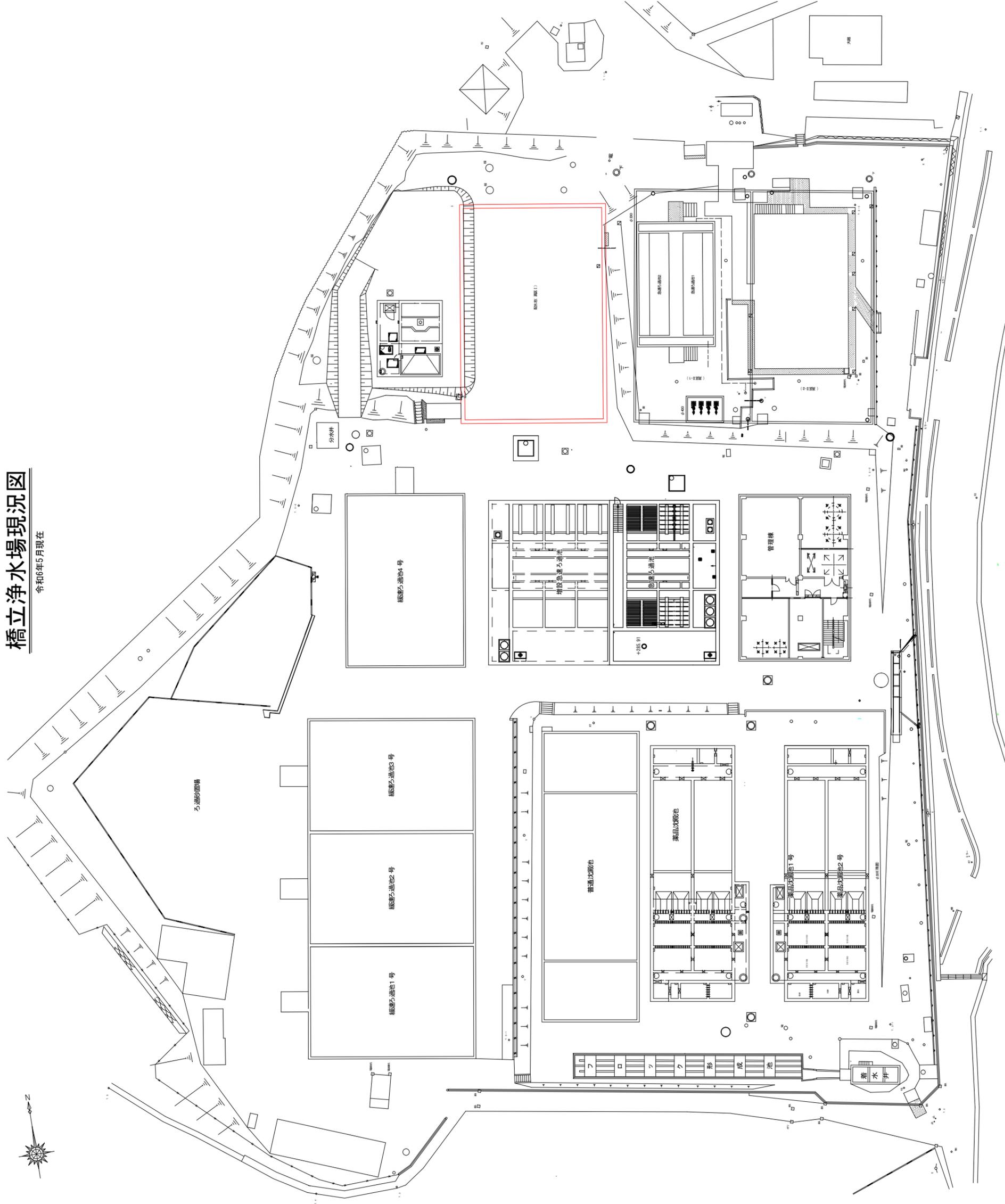
そこで、令和2年度から急速ろ過池の更新を、続けて令和3年度より急速ろ過池に入る水の前処理を行う薬品沈澱池の更新工事に着手しました。

「橋立浄水場急速ろ過池等更新工事」は令和4年に竣工し、「橋立浄水場薬品沈澱池等更新工事」は令和5年に竣工しています。

そして現在更新工事を行っているのが配水池です。令和4年度より着工し、「橋立浄水場配水池等更新工事」として令和7年2月に竣工予定で、橋立浄水場内の広域化事業における更新工事は完了となります。

橋立浄水場現況図

令和6年5月現在



図面名 橋立浄水場現況図

縮尺 S=free

図番 2

秩父広域市町村圏組合水道局

工事実施施設及び事業費

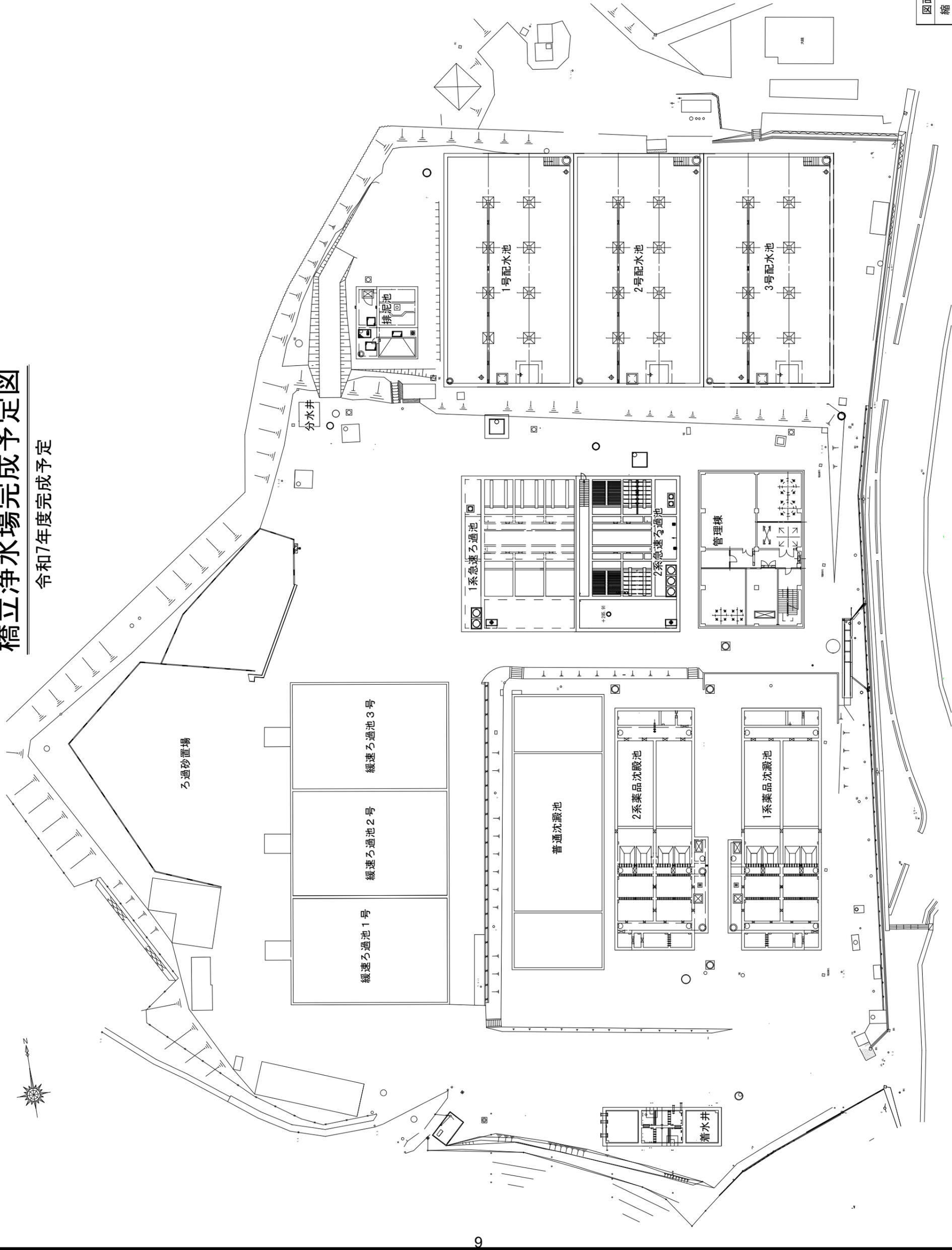
橋立浄水場内広域化事業

実施年度	工事名	金額 (円・税込み)
① 平成28～平成30年度	橋立浄水場機械・電気計装施設等更新工事	1,204,283,160
② 平成29～令和元年度	橋立浄水場着水井等更新工事	201,449,160
③ 令和2～令和3年度	橋立浄水場急速ろ過池等更新工事	1,063,603,200
④ 令和3～令和4年度	橋立浄水場薬品沈澱池等更新工事	832,111,500
⑤ 令和4～令和7年度	橋立浄水場配水池等更新工事	1,013,100,000
合 計		4,314,547,020



橋立浄水場完成予定図

令和7年度完成予定



図面名	橋立浄水場完成予定図
縮尺	S-free
図番	4

別所浄水場の概要

秩父地域で最大浄水能力を有する浄水場である別所浄水場は、浦山ダムの築造により国土交通大臣より安定水利権として、河川より水道用水の取水量が 750 m³/日から 20,970 m³/日に増やすことが許可され、昭和 58 年 2 月に創設工事竣工から 35 年を迎えた施設です。

秩父広域市町村圏組合水道事業としての基幹浄水場として、秩父市内のほか、皆野町まで約 3,500 m³/日送水しています。今後は、皆野町、長瀬町や小鹿野町方面へ給水区域を広げる計画となっています。

現在、国の交付金を活用して、安心・安全・安定を基本とした施設であるために、老朽化した施設の更新事業を進めています。

1. 沿革

名称	許可年度	計 画		
		給水人口	1人1日最大給水量	1日最大給水量
創設 (旧秩父市)	大正11年	15,000 人	110 ℓ/人・日	1,650 m ³ /日
第3次拡張 (旧秩父市)	昭和53年	55,700 人	550 ℓ/人・日	30,635 m ³ /日
創設認可 (秩父広域)	平成28年	100,230 人	545.4 ℓ/人・日	54,670 m ³ /日

2. 水源

別所浄水場は荒川本流の左岸にある取水口より河川水を取り入れ、水道用水の原水としているが、許可取水量は 20,970 m³/日までと制限がある。

取水施設	取水河川	取水許可量 (m ³ /日)	取水方法
別所取水場	荒川	20,970	ポンプアップ取水

3. 概要

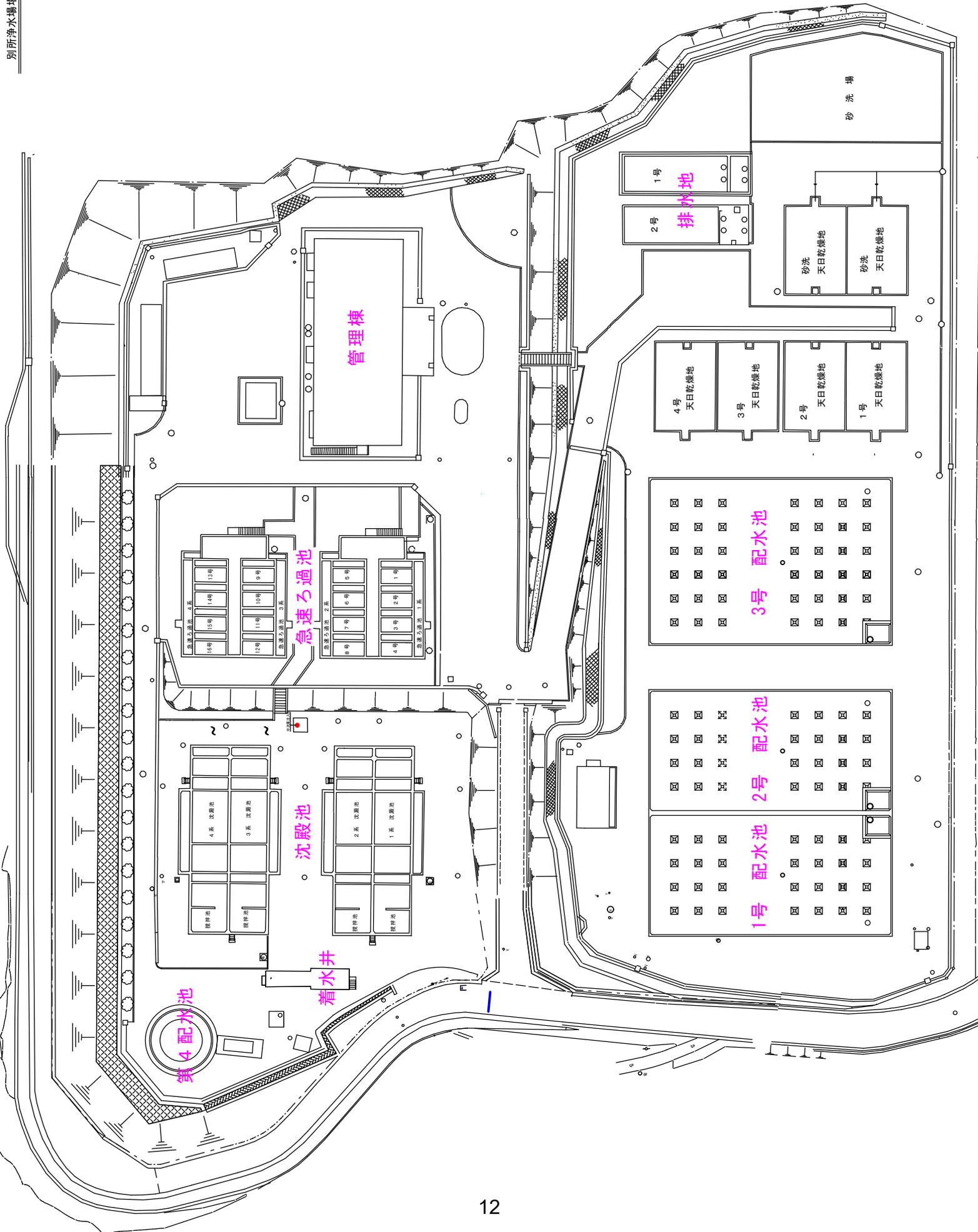
所在地	秩父市別所 538 番地
創設工事竣工	昭和 58 年 2 月 15 日
水源	表流水
1日最大取水量	20,970 m ³ /日
1日最大給水量	20,000 m ³ /日
配水方法	自然流下
浄水方法	急速ろ過方式

4. 現在、橋立浄水場の更新事業が行われているため、橋立浄水場給水区域の一

部地域については、別所浄水場から浄水を送るバックアップ体制をとっております。

○事業経過

別所浄水場については、建設から35年が経過し、電気機械設備など更新時期を迎えてきた機器については広域化による国からの補助金を活用しながら順次更新を行っております。



別所浄水場説明資料（写真）

別所取水場とレゾナック（旧昭和電工）発電放流水



別所取水場と別所浄水場の位置



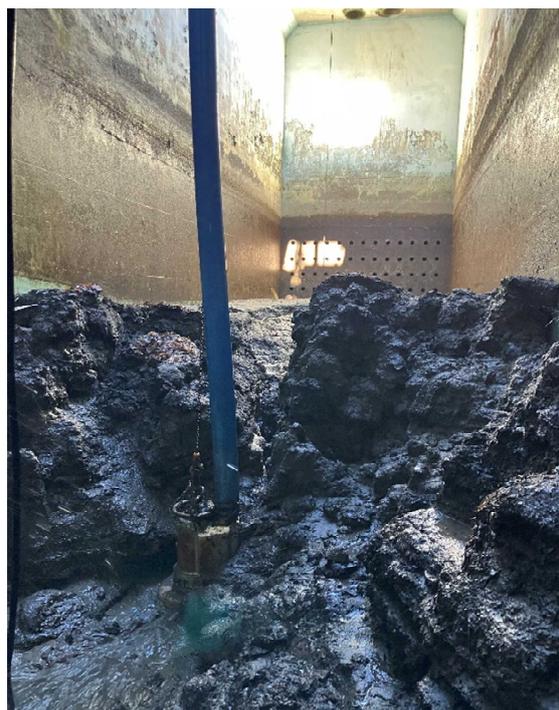
別所取水場除塵機の故障



除塵機で排出した落ち葉



沈砂池に堆積している泥や砂



R元年台風19号被災当初写真（R元年10月21日）



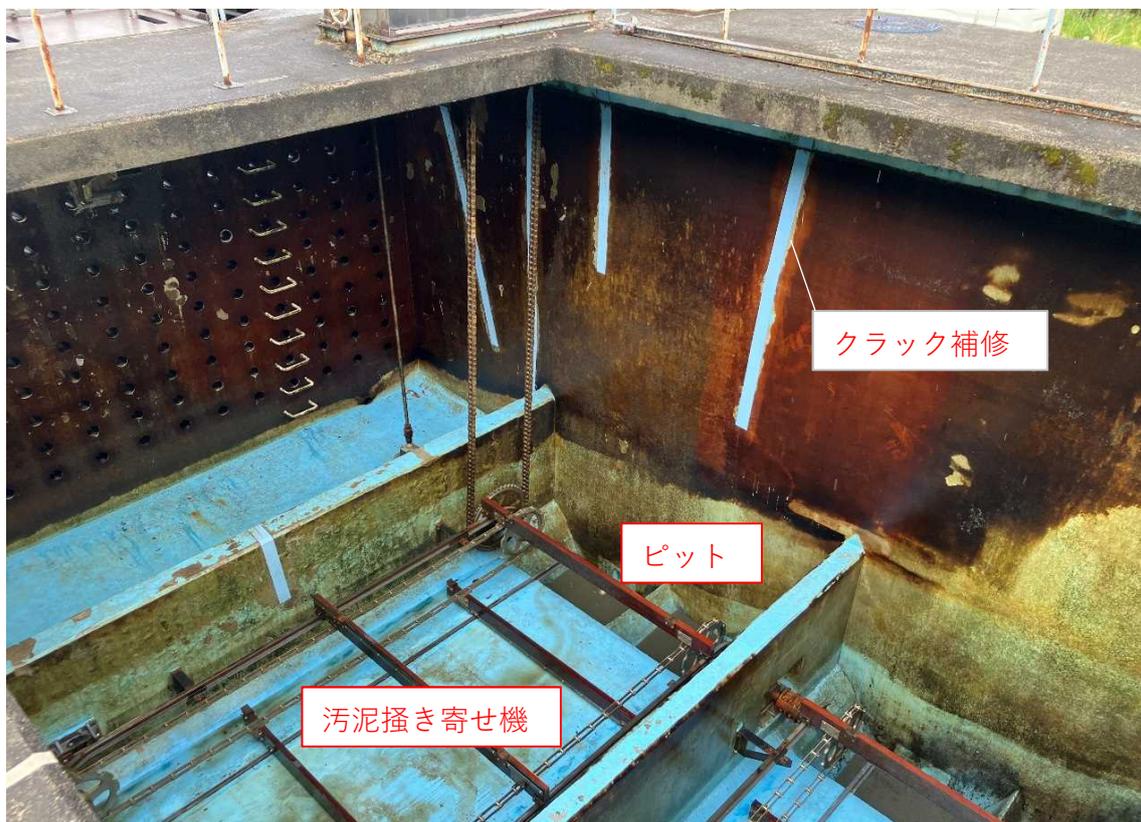
R元年台風19号被災復旧後（R3年7月29日）



R元年台風19号被災当初写真（R元年10月21日）



沈澱池汚泥掻き寄せ機



新秩父ミュージックパーク送水第二ポンプ室

ポンプ室



配水池



竣工日 令和6年2月29日

【配水池】

構造 コンクリート構造物 14m×12m×5m

容量 1,000m³ (500m³×2槽)

【ポンプ室】

ポンプ台数 4台 ※運用後は常時1台～3台同時運転

ポンプ能力 1台あたり 80.4m³/h ×3台 最大 241.2m³/h

自家発電設備 一式 停電時に自動運転

電機室 一式 受電盤・テレメータ他

流量計 配水流量計

緊急遮断弁 一式 (地震検出装置等による制御)

水位計 一式 (電極によって水位を検出し、第一送水ポンプ室のポンプを制御)

新秩父ミュージックパーク送水第二ポンプ室は令和6年2月に完成しました。令和4年度に完成した送水第一ポンプ室、現在建設中の新秩父ミュージックパーク配水池との連携を行い、自然流下で久那～寺尾の一部地域、建設中の配水池から減圧槽を通じて田村・駒沢地域及び小鹿野町の中心地～長若～三田川の三山地域、両神の竹平地域、ミュージックパークの公園内の広範囲を将来の配水エリアとして拡大して運用する予定です。

新秩父ミュージックパーク配水池



現在建設中の配水池(4月撮影)

完成予定日 令和7年2月28日

【配水池】

構造	コンクリート構造物	27m×25m×5m
容量	3,000m ³	(1500m ³ ×2槽)
各流量計	配水流量計、送水流量計	
緊急遮断弁	一式(地震検出装置等による制御)	
水位計	一式(電極によって水位を検出し、第二送水ポンプ室のポンプを制御)	

新秩父ミュージックパーク配水池は、現在建設中で令和7年2月に竣工を予定している。完成後、全体的な運用が開始できることになった場合、配水池を起点として自然流下にて減圧槽を通じて田村・駒沢地域及び小鹿野町の中心地～長若～三田川の三山地域、両神の竹平地域、ミュージックパークの公園内の広範囲を将来の配水エリアとして拡大して運用する予定です。

令和6年5月24日 経営審議会施設見学会資料

赤・・・ 管路

白・・・ 新秩父ミュージアムパーク送水第二ポンプ室 自然流下系統

青・・・ 新秩父ミュージアムパーク配水池 系統

久那の一部、別所、寺尾

世帯約2,000世帯

久那の一部、ミュージアムパーク公園内、田村・駒沢、小鹿野町(長若～三山～両神・竹平)

約4,700世帯



田村・小鹿野へ

田村・駒沢へ

寺尾へ

久那・平仁田へ

吉田地区の水道事業沿革

吉田地区の水道事業は昭和31年に吉田町（872戸）と上吉田村（832戸）が合併促進法により合併し新生「吉田町 1, 704戸・9, 264人」となりました（現在は市町村合併により秩父市吉田）。

上吉田村地区では特に水に不便な生活をしてきたことから、昭和29年に上吉田小学校で使用する事が目的で、宮戸地区に自家用水道が出来、それが簡易水道として大槲部、続いて石間戸まで延び、また昭和30年には塚越地区に続き半納沢戸地区・中島久形地区・大波見女部田地区としたいに延長、その成果もあり昭和35年に新生活運動で全国表彰を水道事業で受賞しました。その中で現存する吉田地区で最も古い半納沢戸簡易水道の施設が昭和31年6月から運用開始となりました。

昭和37年には特別会計を新たに設け予算3,400万円で吉田地区に給水人口3,000人を目標とする水道給水施設を計画（現在の石間浄水場）、着工から2年を経過し完成し、同年11月運用開始しました。総工費2,600万円で配管延長18,000m、消火栓26カ所設置し吉田の大火災の教訓も受け消防力の強化はもとより町民の生活の安定と安全をはかるものでありました。

昭和46年11月塚越地区にて吉田地区上水道工事起工式が行われ、18,750万円で契約し、吉田町としては初めて取水から配水までの工程が全自動となる浄水施設「吉田町浄水場」（塚越浄水場）の建設が始まりました、計画給水人口は6,500人として、2,500立方の能力のある施設を昭和49年4月から運用開始しました。

昭和50年には、阿熊（白岩・川久保・田倉・室久保・松葉）地区への給水計画により、日最大44.8立方の原水を薬品注入沈殿、ろ過を一括して行える急速小型浄水装置を導入自動運転化し昭和51年に運用開始しました。

昭和52年千鹿谷地区への水道工事を着工、昭和62年には合角ダム建設に係る水源地整備事業交付金を活用し女形浄水場工事が2か年計画で着工し、日最大配水量46.2立方、給水戸数50戸の浄水場が平成元年運用開始しました。

平成17年には市町村合併によって秩父市となり、同年には塚越浄水場の急速ろ過装置の更新、平成28年4月1日からは秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町の水道事業が統合し、秩父広域市町村圏組合の一事務として運営が開始され水道局吉田事務所として、令和3年4月1日には小鹿野事務所と統合し小鹿野浄水場に移転して吉田地区・小鹿野地区を管轄する西秩父事務所と名称も変更となりました。

塚越浄水場



計画1日最大取水量	2,588m ³ /日 (0.0299m ³ /秒)
① 吉田川	1,760m ³ /日 (0.0204m ³ /秒)
② 小川川	828 m ³ /日 (0.0095m ³ /秒)
計画1日最大給水量	2,588m ³ /日
創設認可	昭和46年3月31日
工事完成	平成19年7月17日
総事業費	393,120,000円
水源	吉田川・小川川 の表流水
浄水方法	急速ろ過方式
配水方式	自然流下

取水施設

塚越取水場

集水管	コンクリート透水管φ500
集水井	鉄筋コンクリート造 W1.0m×L1.5m×H5.5m×2 連結 1井
取水井への導水管	φ500 ヒューム管
取水井	鉄筋コンクリート造 W3.5m×L3.5m×H2.50m 1井 HWL+276.200m LWL+274.473m
取水ポンプ室	鉄筋コンクリート造 W3.8m×L3.95m×H3.3m 1棟
取水ポンプ	φ125×1.22m ³ /min×53m×22kw×2 電気計装設備 一式 (令和1年度 更新)

予備電気室 補強コンクリートブロック造 W4.6m×L4.6m×H3.3m 1棟
自家発電機 45KVA×200V 1基

浅ヶ谷取水場

取水堰堤 重力式コンクリート造 W1.5~2.6m×L12.0m×H3.0m 1堰
WL +290.600m

取水渠 鉄筋コンクリート造 W1.2m×L0.9m×H6.9m 1渠

接合井 鉄筋コンクリート造 W1.5m×L2.0m×H1.4m 1井
WL+290.600m

取水ポンプ井 鉄筋コンクリート造 W3.5m×L5.0m×H1.0m 17.5m³ 1井
HWL+290.600m LWL+289.600m

取水ポンプ室 鉄筋コンクリート造 3.8m×5.3m 20.1 m² 1棟

取水ポンプ φ65×0.58m³/min×40m×7.5kw 水中モーターポンプ 2台
(令和1年度 No.1 ポンプ更新)

導水施設

導水管 DIP φ200 717m
DIP φ150 (一部鋼管) 430m

浄水施設

着水井 鉄筋コンクリート造 W1.3m×L2.0m×H1.25m 1井
WL+320.700m

攪拌池 鉄筋コンクリート造 W2.45m×L1.3m×H1.25m 1池
ボルテミキサー サイクロ減速機 3相×200V×50Hz×0.44kw
WL+320.700m

混和池 鉄筋コンクリート造 W1.0m×L8.9m×H3.0m 1池
WL+320.700m

フロック形成池 鉄筋コンクリート造 2池
W0.5m×L4.0m×H3.0m×2列
W0.6m×L4.0m×H3.0m×1列
W0.7m×L4.0m×H3.0m×1列
WL+320.700m~+319.900m

横流沈でん池 鉄筋コンクリート造 W4.0m×L12.3m×H3.0m 2池
HWL+319.900m LWL+316.900m

ろ過ポンプ φ80×0.90m³/min×10m 水中モーターポンプ 4台

急速ろ過機 鋼製 内径3.5m×高6.509m 4基
流入口+317.050m 流出口+319.300m

薬品注入施設

薬品注入操作室 鉄筋コンクリート造 延建坪 144 m²×2F=288.0 m² 1棟
ポリ塩化アルミニウム(PAC)
貯留槽 2.0m³ PE製 1槽

	小出し槽	0.2m ³	PVC製	1槽
	注入ポンプ	0.159 L/min	×50w	2台
	次亜注入設備			
	前ポンプ	69.0m/mm	×25w	×2
	後ポンプ	22.5m/mm	×25w	×2台
	貯留槽	1,000ℓ	PVC製	1槽
	電気計装設備	一式		
自家発電設備				
	自家発電機	30KVA	×200V	1基
排水施設				
	排水池	鉄筋コンクリート造	内法 4.0m×6.5m×深 2.0m	容量 52.0m ³ 1池
	排水ポンプ	φ 65	×0.15m ³ /min	×10m
				×1.5kw
		HWL+313.000m	LWL+311.000m	
配水施設				
	配水池	鉄筋コンクリート造	内法 7.85m×9.5m×深 4.5m	容量 671.2m ³ 2池
		HWL+316.000m	LWL+311.500m	

石間浄水場



計画1日最大取水量 432m³/日 (0.005m³/秒)

計画1日最大給水量 432m³/日 (0.005m³/秒)

創設認可 昭和37年 3月31日

工事完成 昭和38年10月26日

総事業費 31,327,000円

水源 石間川の表流水

浄水方法 緩速ろ過方式

配水方式 自然流下

取水施設

取水堰堤 無筋コンクリート造 W15.0m×H3.0m 1堰

堰堤高 282.755m LWL +281.755m

集水管 鉄筋コンクリート多孔管φ400×2,430mm 7本

集水井 鉄筋コンクリート造 W1.5m×L1.5m×H3.7m 1井

LWL +281.655m

導水施設

導水管 ACPφ100 (一部DCIP) 1,609m

浄水施設

着水井 鉄筋コンクリート造 W2.0m×L5.0m×H3.3m 1井

HWL+256.800m LWL+256.400m

沈でん池 鉄筋コンクリート造 W3.2m×L10.4m×H3.4m 113.2m³ 2池

	HWL+255.900m	LWL+252.500m	
ろ過池	鉄筋コンクリート造	W6.3m×L9.0m	3池（内1池予備）
	HWL+255.300m	LWL+254.400m	
ろ過調整井	鉄筋コンクリート造	W1.2m×L1.2m×H0.9m	3井（内1井予備）
	HWL+255.300m	LWL+254.400m	
ろ過集水井	鉄筋コンクリート造	W1.2m×L3.9m×H1.4m	1井
	HWL+254.000m	LWL+252.600m	
薬品注入施設			
滅菌室	補強コンクリートブロック造	1.8m×3.8m=6.84 m ²	1棟
塩素消毒機	次亜注入機		
	注入ポンプ	8m ³ /min	2台（内1台予備）
	貯留槽	φ0.9m×H0.9m	500ℓ 1槽
	電気計装設備	一式	
計装施設			
	多項目水質計器	東亜 DKK MWB-4	
配水施設			
第1配水池	鉄筋コンクリート造	W7.0m×L10.0m×H3.4m	238.0m ³ 1池
	HWL+254.000m	LWL+250.600m	
第2配水池	鉄筋コンクリート造	W6.0m×L10.2m×H2.7m	179.0m ³ 1池
	HWL+254.000m	LWL+251.300m	
ポンプ室	ブロックモルタル吹付平屋	6.30m×4.40m	27.72 m ²
及び操作室	給水ポンプ2台	自動空気補給式圧力タンク1台	
	電気計装設備	一式（令和元年度 更新）	

矢畑配水池

塚越浄水場から送水された浄水をP Cタンクにて受水し、自然流下にて配水している。



工事完成 平成 10 年 3 月 31 日
総事業費 395,325,000 円
配水方式 自然流下

配水施設

P C タンク 内径 19.60m × 有効水深 10.00m (有効容量 3,000m³) 1 池
HWL+270.000m LWL+260.000m
管理棟 鉄筋コンクリート造金属板葺 8.10m × 4.50m 床面積 76.35m²
地下 1 階、地上 1 階
送水ポンプ $\phi 65\text{mm} \times 0.49\text{m}^3/\text{分} \times 5.5\text{KW}200\text{V}50\text{Hz}$ 2 台
次亜注入装置 1 台 緊急遮断弁 $\phi 350$ 1 基
電動流入弁 $\phi 200\text{mm} \times 0.75\text{KW} \times 200\text{V}50\text{Hz}$ 1 台

半納、沢戸簡易水道



計画給水人口	219 人
計画 1 日最大給水量	81.0 m ³
計画 1 人 1 日最大給水量	370 ℓ
計画 1 人 1 日平均給水量	224 ℓ
創設認可	昭和 30 年 5 月 18 日
工事完成	昭和 31 年 6 月 15 日
総事業費	2,655,000 円
水源	第 1 水源 岩城沢の湧水 27 m ³ /日 第 2 水源 笹沢の伏流水 36 m ³ /日 第 3 水源 岩城沢の伏流水 18 m ³ /日
浄水方法	緩速ろ過方式（上向流式簡易ろ過）
配水方式	自然流下
取水堰堤	第 1 水源 HWL+624.49m LWL+624.29m 第 2 水源 無筋コンクリート造 9.6m×高 2.0m 1 堰 HWL+647.03m LWL+646.03m 第 3 水源 無筋コンクリート造 4.0m×高 1.2m 1 堰 HWL+577.60m LWL+577.30m
導水管	第 1 水源 岩城沢：ACP φ75 165.0m 第 2 水源 笹沢：SGP φ32 16.5m、PP φ30 763.0m 第 3 水源 岩城沢：SGP-VB φ50 11.0m、SGP-VB φ40 2.5m、PP φ40 63.0m
取水ポンプ室	鉄筋コンクリート造平屋 2.15m×2.15m 床面積 4.62 m ² 1 棟

地下タンク 有効容量：直径 1.20m × H2.10m HWL+577.10m LWL+575.70m
ポンプ能力 $\phi 32 \times 0.05\text{m}^3/\text{min} \times 41\text{m} \times 1.5\text{kw}$

浄水場

滅菌室 鉄筋コンクリート造平屋 2.75m × 2.10m 床面積 5.78 m² 1棟
地下（積式流量計）1.35m × 2.55m × 2.50m

ろ過池 1.45m × 2.55m × 2.50m（有効水深 1.36m）
HWL+608.88m LWL+608.81m

配水池 第1配水池 3.00m × 5.00m × 1.80m（有効容量 27.00 m³）
HWL+607.38m LWL+605.98m

第2配水池 3.00m × 4.00m × 1.80m（有効容量 21.60 m³）
HWL+507.78m LWL+506.38m

第3配水池 2.00m × 3.00m × 3.40m（有効容量 20.40 m³）
HWL+492.05m LWL+489.05m

第1調整池 鉄筋コンクリート造半地下式有蓋 1.50m × 1.00m × 有効水深 1.40m
HWL+594.37m LWL+592.92m

第2調整池 鉄筋コンクリート造半地下式有蓋 1.50m × 1.00m × 有効水深 1.40m
HWL+519.78m LWL+518.33m

中郷簡易水道



計画給水人口 250人

計画1日最大給水量 28.65 m³

計画1人1日最大給水量 150 ℓ

計画1人1日平均給水量	100 ℓ
創設認可	専用水道 昭和30年 月 日 簡易水道 昭和38年4月1日 申請
工事完成	昭和33年7月1日
総事業費	1,380,000 円
水源	石間川支流井戸沢の伏流水
浄水方法	緩速ろ過方式
配水方式	自然流下
取水	取水堰堤 無筋コンクリート造
導水管	
	ACP φ50 133m
浄水場	
滅菌室	鉄筋コンクリート造平屋 1.25m×1.50m 床面積 1.88 m ² 1棟 地下（積式流量計） 1.15m×0.60m+0.60m×1.80m
ろ過池	1.80m×3.00m×有効水深 1.05m 2池 有効容量 11.34 m ³
配水池	2.00m×3.00m×1.80m（有効水深 1.50m） 有効容量 9.00 m ³

阿 熊 簡 易 水 道（白岩浄水場）



計画給水人口	276 人
計画1日最大給水量	44.8 m ³

計画1人1日最大給水量	150 ℓ
計画1人1日平均給水量	100 ℓ
創設認可	昭和50年6月17日
工事完成	昭和52年3月31日
総事業費	68,725,000円
更新工事完成	平成25年3月31日
更新工事費	98,175,000円
水源	阿熊川支流白岩沢の人口伏流水
浄水方法	急速ろ過方式
配水方式	自然流下
取水施設	
取水堰堤	無筋コンクリート造 16.0m×高3.7m 重力式堰堤1堰 HWL+477.85m LWL+477.35m
集水管	遠心力鉄筋コンクリート集水管 呼径φ250×2.0m 4本
集水筐	内法巾0.7m×高0.9m×長さ3.7m
接合井	鉄筋コンクリート造 内法1.2m×1.2m×深3.0m 1井 WL+477.25m
導水管	
φ40塩化ビニール管	141.5m 標高477.35m~462.0m
浄水場	
浄水施設	ブロックモルタル吹付平屋 6.55m×4.65m 床面積30.46㎡ 小型浄水施設(凝集池WL+463.90m、薬品沈でん池、急速ろ過池HWL+463.80 LWL+463.50、 逆洗水槽WL+462.79、薬品注入機、他付属一式)
ろ過池	鋼板製 小型浄水装置 (最大浄水能力50㎡/日)
滅菌室	鉄筋コンクリート造平屋 3.85m×2.60m 床面積10.01㎡
第1配水池	2.50m×3.55m×3.80m (有効水深3.00m) 有効容量53.25㎡ HWL+461.5m LWL+458.5m
第2配水池	2.30m×2.00m×3.30m (有効水深2.50m) 有効容量11.50㎡ HWL+405.0m LWL+402.5m
圧力ポンプ	自動空気補給式圧力タンク 1台
第1減圧井	鉄筋コンクリート造半地下式有蓋 1.50m×1.50m×3.65m (有効水深3.15m) WL+386.0m
第1減圧井	鉄筋コンクリート造半地下式有蓋 1.50m×1.50m×3.65m (有効水深3.15m) WL+336.0m

女形簡易水道



計画給水人口	210 人
計画 1 日最大給水量	42.0 m ³
計画 1 人 1 日最大給水量	150 ℓ
計画 1 人 1 日平均給水量	100 ℓ
創設認可	昭和 6 2 年 3 月 3 1 日
工事完成	平成元年 3 月 31 日
総事業費	148,328,000 円
水源	吉田川支流女形沢の伏流水
浄水方法	緩速ろ過方式
配水方式	自然流下
取水施設	
取水堰堤	幅 0.60m~1.20m × 長さ 4.50m~7.00m × 高さ 1.70m WL+482.5m
取水用透水管	φ 200 mm × 長さ 4.00m 集水コンクリート管
取水柵	内法幅 1.50m × 長さ 1.50m × 深さ 2.80m
導水管	
DCIP	φ 75 mm L=83.0m
浄水施設	
着水井	1.20m × 1.20 + 1.80 + 1.20m × 2.50m (有効水深 2.00m) 1 井 WL+474.4m
普通沈殿池	1.80m × 1.20 + 4.30 + 1.20m × 2.30m (有効水深 2.00m) 1 池 HWL+474.1m LWL+472.1m

緩速ろ過池 2.80m × 5.00m × 2.90m (有効水深 2.50m) 2池 有効容量 70.00 m³
HWL+474.1m LWL+473.1m

配水施設

接合井 1.45m × 2.35m × 3.00m (有効水深 2.50m) 1池
HWL+472.5m LWL+470.0m

配水池 4.20m × 4.40m × 3.00m (有効水深 2.50m) 2池 有効容量 92.40 m³
HWL+472.5m LWL+470.0m

塩素滅菌室 鉄筋コンクリート造 2.65m × 1.75m 床面積 4.64 m² 1棟
次亜塩素注入 ポンプ2台

送水施設

第1減圧井 1.80m × 1.80m × 2.30m (有効水深 1.50m)
HWL+438.45m LWL+436.95m

第2減圧井 1.80m × 1.80m × 2.30m (有効水深 1.50m)
HWL+384.2m LWL+382.7m

吉田地区 配水施設 (各ポンプ場・配水調整池)



■第1増圧ポンプ場 (浅ヶ谷)

ポンプ井 (受水槽)	鉄筋コンクリート造	内法 1.2m×2.0m×深 1.60m	1井 (3.84m ³)
		HWL+301.692m	LWL+300.092m
ポンプ		φ40×0.106m ³ /min×70m×3.7kw	2台 (内1台予備)
		電気計装設備	一式
圧力タンク	鋼板製 (山商)	(製造 2005.1)	φ1,000×1,200mm (1.0m ³) 1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.2m×6.4m×高 3.35m	1棟

■第2増圧ポンプ場 (小川)

ポンプ井 (受水槽)	鉄筋コンクリート造	内法 1.2m×2.0m×深 1.02m	1井 (2.45m ³)
		HWL+348.944m	LWL+347.924m
ポンプ		φ40×0.069m ³ /min×82m×3.7kw	2台 (内1台予備)
		電気計装設備	一式
圧力タンク	鋼板製 (山商)	(製造 2006.1)	φ1,000×1,200mm (1.0m ³) 1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.4m×6.4m×高 3.3m	1棟

■第3増圧ポンプ場 (石間浄水場内)

ポンプ		φ40×0.121m ³ /min×80m×5.5kw	2台 (内1台予備)
ポンプ井	石間浄水場配水池	(計 417.0m ³)	
		電気計装設備	一式 (令和1年度 更新)
圧力タンク	鋼板製 (山商)	(製造 1999.7)	φ1,000×1,200mm (1.0m ³) 1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	3.0m×4.6m×高 3.3m	1棟

■第4増圧ポンプ場（彦久保）

ポンプ井（受水槽）	鉄筋コンクリート造	内法 1.2m×2.0m×深 0.75m	1井（1.80m ³ ）
		HWL+222.150m	LWL+221.400m
ポンプ		φ40×0.060m ³ /min×55m×3.7kw	2台（内1台予備）
		電気計装設備	一式
圧力タンク	鋼板製	1.0m ³	1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.4m×6.4m×高 3.3m	1棟

■第5増圧ポンプ場（沢口）

ポンプ井（受水槽）	鉄筋コンクリート造	内法 2.9m×2.4m×深 1.6m	1井（13.2m ³ ）
		HWL+285.000m	LWL+283.400m
ポンプ		φ40×0.200m ³ /min×50m×5.5kw	2台（内1台予備）
		電気計装設備	一式
圧力タンク	鋼板製	0.5m ³	1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.0m×6.0m×高 3.3m	1棟

■千鹿谷第1増圧ポンプ場

ポンプ井（受水槽）	鉄筋コンクリート造	内法 1.2m×2.0m×深 2.2m	1井（5.28m ³ ）
		HWL+286.700m	LWL+284.500m
ポンプ		φ40×0.044m ³ /min×57m×3.7kw×2	
		電気計装設備	一式
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.0m×6.4m×高 3.3m	1棟

■千鹿谷第2増圧ポンプ場

ポンプ井（受水槽）	鉄筋コンクリート造	内法 1.2m×2.0m×深 1.0m	1井（2.40m ³ ）
		HWL+328.500m	LWL+327.500m
ポンプ		φ40×0.041m ³ /min×82m×3.7kw×2	
		電気計装設備	一式（平成29年度 更新）
計装設備	残留塩素計	東亜 DKK CLF-161U	
薬品注入設備	次亜注入設備	OYALOX OMU Y-50K	
ポンプ室	補強コンクリートブロック造	4.0m×6.4m×高 3.3m	1棟

■巢掛増圧ポンプ場

ポンプ井（受水槽）	鉄筋コンクリート造	内法 12.6m×10.0m×深 4.0m	1井（504m ³ ）
		HWL+260.000m	LWL+256.000m
ポンプ		φ40×0.033m ³ /min×50m×1.5kw×2	
		φ100×0.840m ³ /min×160m×40kw×2	
		電気計装設備	一式
圧力タンク	鋼板製	0.26m ³	1基（製造 1995.10）

薬品注入設備	次亜注入ポンプ Panasonic
ポンプ室	補強コンクリートブロック造 7.0m×7.0m×高 5.0m 1棟
自家発電機	75KVA×200V

■首部沢増圧ポンプ場

ポンプ井 (受水槽)	鉄筋コンクリート造 内法 1.0m×2.0m×深 1.6m 1井 HWL+224.100m LWL+222.500m
自動給水装置	φ40×0.1m ³ /min×42m×2.2kw×2 (荏原製作所エバラフレッシャー) 電気計装設備 一式
圧力タンク	鋼板製 0.67m ³ 1基 (製造 2002.9)
ポンプ室	補強コンクリートブロック造 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

■関増圧ポンプ場

ポンプ井 (受水槽)	FRP製 2.0m ³ 1井 HWL+225.900m LWL+224.900m
自動給水装置	φ32×0.13m ³ /min×53m×1.1kw×2 (川本製作所ポンパーKB) 電気計装設備 一式
ポンプ室	補強コンクリートブロック造 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

■新堀増圧ポンプ場 (現在休止中) (解体撤去の予定)

ポンプ井 (受水槽)	FRP製 1.0m³ 1井 HWL+221.600m LWL+220.600m
自動給水装置	φ32×0.06m³/min×53m×1.1kw 2台 (内1台予備) 電気計装設備 一式
圧力タンク	鋼板製 1.0m³ 1基
ポンプ室	補強コンクリートブロック造 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

■万場沢増圧ポンプ場

ポンプ井 (受水槽)	鉄筋コンクリート造 内法 1.0m×2.0m×深 1.6m 1井 HWL+226.500m LWL+224.900m
自動給水装置	φ50×0.33m ³ /min×65m×3.7kw×2 (川本製作所ポンパーKB) 電気計装設備 一式
ポンプ室	補強コンクリートブロック造 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

■藤六増圧ポンプ場

ポンプ井 (受水槽)	パネル型水槽 内法 1.5m×2.0m×深 2.0m 1井 HWL+226.000m LWL+224.000m
自動給水装置	φ40×0.25m ³ /min×26m×2.2kw×2

(荏原製作所エバラフレッシャー)

電気計装設備 一式

ポンプ室 パネル型水槽一体型 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

■新志増圧ポンプ場 (現在休止中) (解体撤去の予定)

~~直結ポンプ 2.0m³/min×20m×1.5kw 1台~~

■布里増圧ポンプ場

ポンプ井 (受水槽) 鉄筋コンクリート造 内法 1.2m×2.0m×深 0.9m 1井
HWL+227.000m LWL+226.100m

自動給水装置 φ40×3.7kw 2台 (内1台予備)

圧力タンク 鋼板製 1.0m³ 1基

ポンプ室 補強コンクリートブロック造 4.0m×6.4m×高 3.3m 1棟

●千鹿谷配水池 (高区・小鹿野の一部へ配水)

鉄筋コンクリート造 内法 4.0m×3.0m×深 3.1m 容量 37.2m³ 1井
HWL+446.000m LWL+442.900m

●畜産団地受水槽

鉄筋コンクリート造 内法 4.0m×3.0m×深 3.0m 容量 36.0m³ 1井
HWL+351.230m LWL+348.230m

●花園配水池 (ゴルフ場受水槽) (容量不明のため単掛ポンプ場と同量とした)

鉄筋コンクリート造 内法 m× m×深 m 容量 504m³ 1井
HWL+364.000m LWL+359.500m

●鉢久保受水槽

FRP製 φ1.4m×0.8m 容量 1.2m³ 1井
HWL+298.800m LWL+298.000m

●矢畑減圧弁室

テレメーター盤 (電動弁操作、配水流量・流入流量計測) 一式

電動弁室 (地下式) 1室、配水流量計室 (地下式) 1室、電磁流量計室 (地下式) 1室

●半納第1調圧水槽 (半納系)

鉄筋コンクリート造 内法 1.5m×1.0m×深 1.8m (有効 1.4m) 容量 2.10m³ 1井

●半納第2調圧水槽 (半納系)

鉄筋コンクリート造 内法 1.5m×1.0m×深 1.8m (有効 1.4m) 容量 2.10m³ 1井

●半納第2配水池（半納系）

鉄筋コンクリート造 内法 3.5m×2.5m×深 1.8m（有効 1.4m）容量 12.25m³ 1井

●半納第3配水池（半納系）

鉄筋コンクリート造 内法 2.5m×1.5m×深 3.4m（有効 3.0m）容量 12.75m³ 1井

●女形第1減圧井（女形系）

鉄筋コンクリート造 内法 1.8m×1.8m×深 2.3m（有効 1.5m）容量 4.86m³ 1井

●女形第2減圧井（女形系）

鉄筋コンクリート造 内法 1.8m×1.8m×深 2.3m（有効 1.5m）容量 4.86m³ 1井

●白岩第2配水池（白岩系）

鉄筋コンクリート造 内法 2.3m×2.0m×深 3.3m（有効 2.5m）容量 11.5m³ 1井

●白岩第1減圧井（白岩系）

鉄筋コンクリート造 内法 1.5m×1.5m×深 3.65m（有効 3.15m）容量 7.09m³ 1井

小鹿野地区水道事業の沿革



(1) 旧小鹿野町の水道

旧小鹿野町の水道事業は、昭和41年に計画給水人口6,000人規模で上水道として創設され、給水を開始しました。以後、長若簡易水道を統合し、昭和51年・53年の拡張事業により、小判沢、伊豆沢地区へも給水を開始しました。

その後、第一簡易水道（三田川の間明平から栗尾まで）・第二簡易水道（三田川の坂本から皆本まで）・倉尾簡易水道の3カ所も給水を開始し、地域住民の生活環境の向上や産業の発展に大きな役割を果たしてきました。

(2) 旧両神村の水道

旧両神村の水道事業は、昭和43年に計画給水人口2,600人規模の簡易水道として創設され、給水を開始しました。以後、拡張事業により、薄、小森の奥地を給水区域に加え、昭和63年には山居・見違の一部を編入しています。

また、煤川簡易水道については、小森川を水源とした計画でスタートしましたが、その後、水源を森戸沢に変更し、昭和56年から給水を開始しました。

(3) 新生「小鹿野町」の誕生

平成17年の町村合併により新生「小鹿野町」が誕生した後、しばらくは1上水道5簡易水道で水道事業を運営してきました。しかし、安全な水道水の安定供給と更なる効率的な事業運営を目指すため、平成23年に旧小鹿野町の3簡易水道（第一簡易水道事業、第二簡易水道事業、倉尾簡易水道事業）及び旧両神村の2簡易水道（両神簡易水道事業、煤川簡易水道事業）を小鹿野町上水道事業が譲り受け、小鹿野町における水道事業の一元化を図りました。

(4) 秩父地域水道事業統合

平成28年4月1日から秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町の水道事業が統合し、秩父広域市町村圏組合の一事務として運営が開始されました。

(5) 各水道施設の沿革

施設名	事業名	許可年度	竣工年度	計画給水人口 (人)	計画1日最大給水量 (m^3)	計画1人1日最大給水量 (l)
小鹿野浄水場	創設	昭和37年	昭和41年	6,000	1,510	252
	第1拡張	昭和45年	昭和45年	6,000	1,510	252
	第2拡張	昭和46年	昭和47年	8,000	2,430	304
	第3拡張	昭和51年	昭和51年	8,000	2,430	304
	第4拡張	昭和53年	昭和53年	8,300	2,525	304
	第5拡張	昭和56年	昭和58年	9,955	5,205	523
三山浄水場	創設	昭和42年	昭和43年	1,086	337	311
	第1拡張	昭和54年	昭和56年			
河原沢浄水場	創設	昭和49年	昭和52年	1,100	180	164
倉尾浄水場	創設	昭和61年	平成元年	1,200	272	227
浦島浄水場	創設	昭和42年	昭和43年	3,000	1,110	370
竹平浄水場	創設	昭和51年	昭和54年			
煤川浄水場	創設	昭和54年	昭和56年	150	30	200



水道施設の概要

1) 小鹿野浄水場

- ①場 所 小鹿野町小鹿野
- ②創設工事竣工 S41.2.28
- ③水 源 赤平川の表流水
- ④1日最大取水量 5,500 m³/日
- ⑤1日最大給水量 5,300 m³/日
- ⑥浄水処理方法 急速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下
ポンプ圧送



2) 三山浄水場

- ①場 所 小鹿野町三山
- ②創設工事竣工 S43.10.31
- ③水 源 赤平川の表流水
- ④1日最大取水量 424 m³/日
- ⑤1日最大給水量 337 m³/日
- ⑥浄水処理方法 緩速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下
ポンプ圧送



3) 河原沢浄水場

- ①場 所 小鹿野町河原沢
- ②創設工事竣工 S52.1.13
- ③水 源 河原沢川の表流水
- ④1日最大取水量 200 m³/日
- ⑤1日最大給水量 180 m³/日
- ⑥浄水処理方法 緩速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下
ポンプ圧送



4) 倉尾浄水場

- ①場 所 小鹿野町藤倉
- ②創設工事竣工 H1.3.10
- ③水 源 藤倉川の表流水
- ④1日最大取水量 299.2 m³/日
- ⑤1日最大給水量 272 m³/日
- ⑥浄水処理方法 緩速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下
ポンプ圧送



5) 浦島浄水場

- ①場 所 小鹿野町両神薄
- ②創設工事竣工 S43.12.20
- ③水 源 浦島沢の表流水
- ④1日最大取水量 433 m³/日
- ⑤1日最大給水量
- ⑥浄水処理方法 緩速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下

※竹平浄水場を補完するための送水を行う。



6) 竹平浄水場

- ①場 所 小鹿野町両神薄
- ②創設工事竣工 S54.3.31
- ③水 源 薄川の表流水
- ④1日最大取水量 636 m³/日
- ⑤1日最大給水量 1,110 m³/日
- ⑥浄水処理方法 緩速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下
ポンプ圧送



7) 煤川浄水場

- ①場 所 小鹿野町両神小森
- ②創設工事竣工 S56.3.31
- ③水 源 森戸沢の表流水
- ④1日最大取水量 33 m³/日
- ⑤1日最大給水量 30 m³/日
- ⑥浄水処理方法 急速ろ過
- ⑦配水方式 自然流下



皆野町・長瀬町の水道事業沿革

皆野町・長瀬町の上水道事業は、昭和 37 年に皆野・長瀬水道企業団として、両町の中心部を給水区域として創設し、昭和 41 年に給水を開始した。

平成 16 年、17 年には、これまで皆野町、長瀬町で経営していた簡易水道事業を譲り受けた。

そして、平成 20 年に、上水道事業を経営する皆野・長瀬水道企業団と下水道事業を経営する秩北衛生下水道組合が統合し、皆野・長瀬上下水道組合として運営を開始した。

皆野町・長瀬町地区

みなの 皆野浄水場

場所	皆野町大字皆野
創設工事竣工	昭和 37 年
水源	荒川の表流水
1 日取水可能量	3,913 m ³ /日
1 日浄水能力	3,913 m ³ /日
浄水処理方法	急速ろ過
配水方式	自然流下 (一部ポンプ圧送)



みさわ 三沢浄水場

場所	皆野町大字三沢
創設工事竣工	昭和 35 年
水源	長小根川の表流水
1 日取水可能量	270 m ³ /日
1 日浄水能力	270 m ³ /日
浄水処理方法	緩速ろ過
配水方式	自然流下 (一部ポンプ圧送)



かねざわ 金沢浄水場

場所	皆野町大字金沢
創設工事竣工	昭和 46 年
水源	身馴川の表流水
1 日取水可能量	56 m ³ /日
1 日浄水能力	56 m ³ /日
浄水処理方法	緩速ろ過
配水方式	自然流下



皆野浄水場の概要

1. 沿革

名称	認可年度	計 画		
		給水人口	1人1日最大給水量(m ³)	1日最大給水量(m ³)
創 設	昭和37年度	11,000人	210m ³	2,310m ³
第1次拡張	昭和45年度	11,400人	210m ³	2,394m ³
第2次拡張	昭和49年度	14,500人	536m ³	7,775m ³
第3次拡張	平成13年度	18,431人	443m ³	8,100m ³
第3次第1変	平成14年度	水源変更のみ、計画は同上		
事業の全部の譲受け	平成16年度	両町簡易水道の事業譲り受け		
第4次拡張	平成18年度	18,743人	446m ³	8,155m ³

2. 水 源

1) 取 水

取水塔を設け、取水ポンプにより荒川表流水を取水し、浄水場へ導水する。

水利権量：3,913m³/日

2) 受 水

秩父にて浄水された飲料水を美の山にある皆野第1配水池へ受水する。

最大受水量：5,000m³/日

3. 浄 水

場 所：皆野町大字皆野283番地

浄水処理方法：急速濾過方式

処理能力：7,775m³/日

4. 配 水

皆野第1配水池：皆野町大字皆野3600-2番地

容 量：3,200m³

皆野第2配水池：皆野町大字皆野3256番地

容 量：3,200m³

配水管 口径75mm以上の管延長：約96,451.3m

5. その他施設

送水ポンプ場：5箇所

増圧ポンプ場：10箇所

配水池：4箇所

6. 給 水(令和5年3月末)

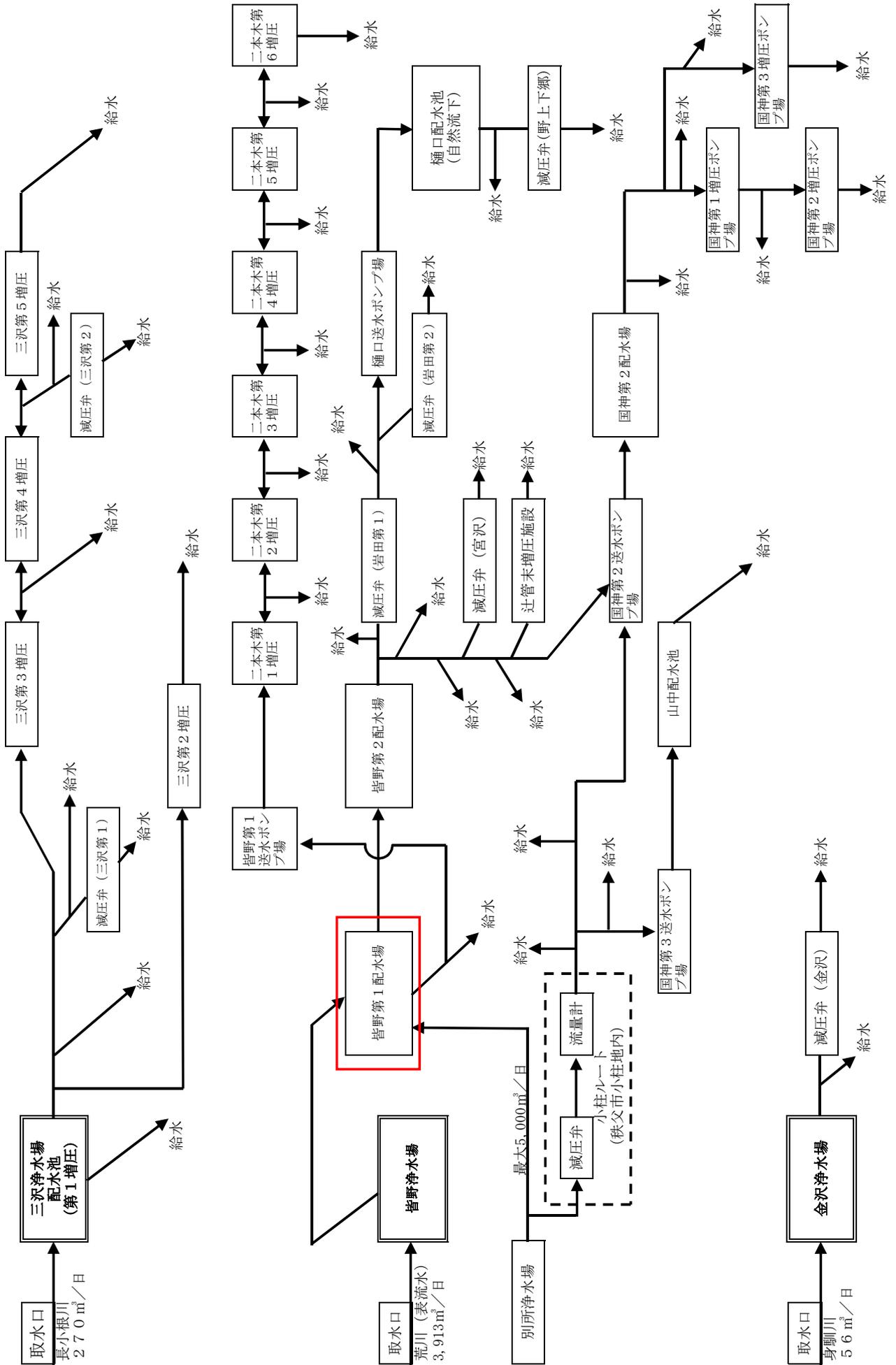
給水人口：13,913人 (旧国神、樋口、宮沢浄水場給水区及び二本木給水区含む)

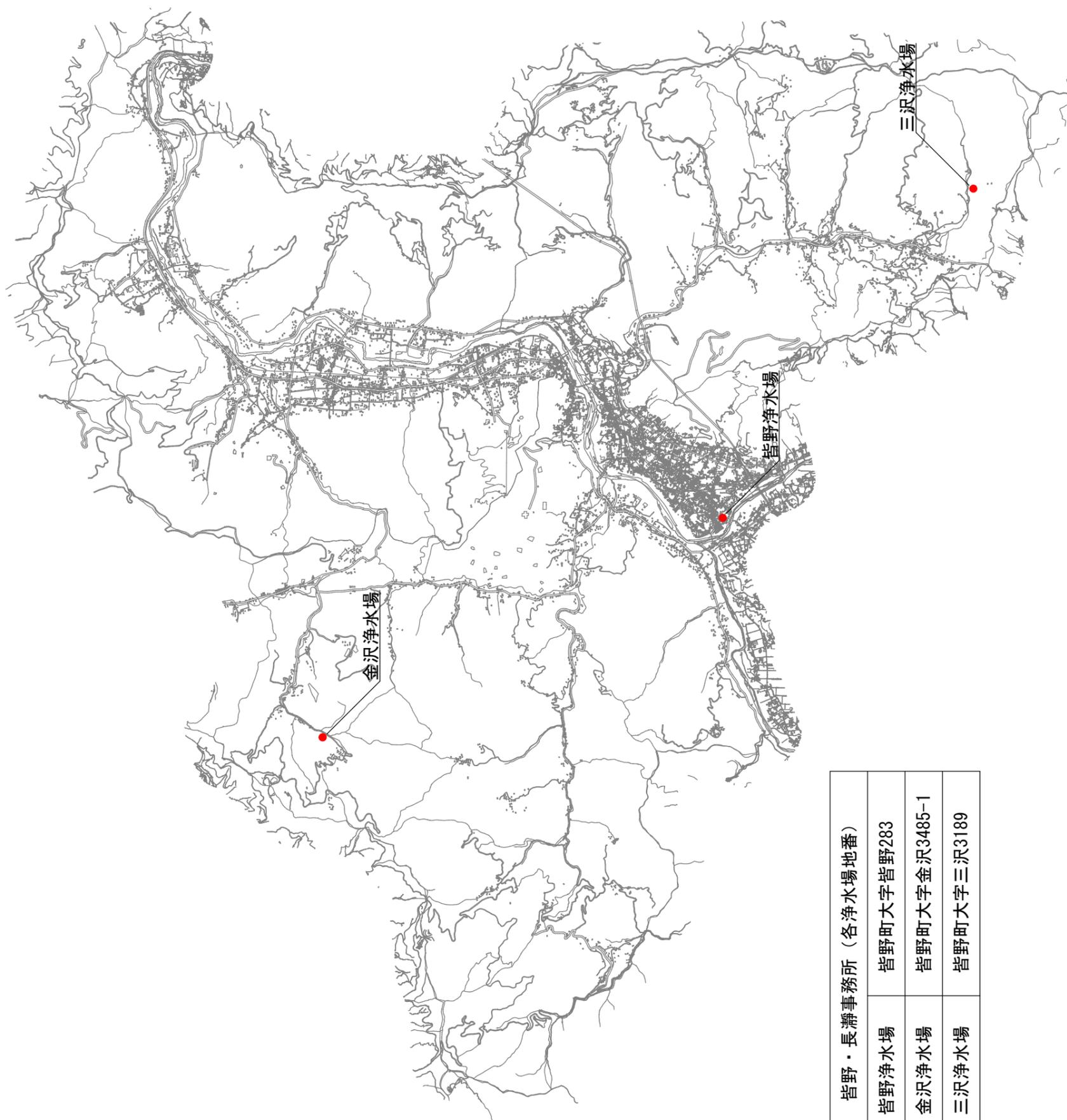
給水戸数：6,115戸 (旧国神、樋口、宮沢浄水場給水区及び二本木給水区含む)

1日平均配水量：4,959m³ (旧国神、樋口、宮沢浄水場給水区及び二本木給水区含む)

給水区域：別紙参照

秩父広域市町村圏組合 水道局 皆野長瀬事務所 給水区域内全体フロー図 令和6年度時点





皆野・長瀬事務所（各浄水場地番）	
皆野浄水場	皆野町大字皆野283
金沢浄水場	皆野町大字金沢3485-1
三沢浄水場	皆野町大字三沢3189